

平成22年度 子ども・青少年局 組織目標の評価

達成度
 ○：目標値以上の実績があった
 ◎：ほぼ目標値どおりの実績があった
 △：目標値に達しなかった
 ×：未実施

重点テーマ 社会で子育てを支え、子どもの生きる力を育むために

地域が関わる子育て、子育ての環境づくり				第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期								
目標	課題 (何を)	具体施策 (何によって)	H22目標値 (どれくらい)	目標達成への工程 (ほっとシート)																	
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
目標1 淡海子ども・若者プランの推進		昨年度末に策定した「淡海子ども・若者プラン」の周知を図るとともに、県民、市町、企業等との連携を図りながら、プランを着実に推進していきます。	・淡海子ども・若者プラン進行管理の開始 ・子ども・若者育成支援推進法に基づく地域協議会の設立のあり方等の検討	計画	子ども・青少年施策推進本部 H22関連事業とりまとめ	進行管理方法の検討	策定協議会の意見聴取		各課意見照会	子ども・青少年施策推進本部											
				実施	子ども・青少年施策推進本部連絡員会議	関係団体等に対するプランの説明(4月～5月)	H22関連事業とりまとめ		各課意見照会											淡海子ども・若者プラン策定協議会委員会議	
				計画		地域協議会設置状況調査		庁内関係課で意見交換		関係機関等意見聴取		協議会の設置検討									
				実施	子ども・青少年施策推進本部連絡員会議	地域協議会設置状況調査		庁内関係課で意見交換		関係機関等意見聴取		県精神保健福祉センター調査(11/11) 京都府調査(11/12)	協議会の設置検討								方向性の決定

達成度	達成状況 <実績値・評価(課題)>	今後の対応
◎	<実績値> ・プランの周知を図るため、9つの関係団体の総会等において、プランの概要説明を実施しました。 ・ 進行管理(点検評価)方法 についてプラン策定協議会委員会議に諮り、意見を伺いました。 <評価> ・協議会委員の意見等を踏まえ、評価方法を確定する必要があります。 ・評価結果を速やかに事業に反映させていく仕組みを工夫する必要があります。	協議会委員の意見等を踏まえ、評価方法を確定し、次年度から点検評価を実施します。
◎	<実績値> ・子ども・青少年施策推進本部連絡員会議を開催し、関係部局に協議を行いました。 ・京都府や県内の関係機関について調査を行いました。 <評価> ・調査を行った結果、既存の類似組織や相談機能がある中で、新たな組織を設置する必要性は低いと判断しました。 ・既存の関係機関が連携を密にして、課題に対応していく必要があります。	・子ども・若者育成支援推進法の趣旨に鑑みて、既存のネットワーク組織や相談機関の取組をベースに、実質的かつ綿密な相互連携を図ります。

地域が関わる子育て、子育ての環境づくり				目標達成への工程 (ほっとシート)	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			達成度	達成状況 <実績値・評価(課題)>	今後の対応		
目標	課題 (何を)	具体施策 (何によって)	H22目標値 (どれくらい)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
目標2 「社会で子育てを支えるしが」の推進		「子育て三方よしコミュニティ」推進事業を実施し、「子育て三方よしコミュニティ」づくりを進めるとともに、社会全体で子育てを支える気運醸成に取り組みます。 ・淡海子育て応援団登録店舗数 896店(H21) 920店	子どもの「遊び」に関するフォーラム等の開催 ・テレビ番組やインターネットを活用した子育て情報の発信 ・子育て支援機関の交流事業の開催	計画		冒険遊び場づくり講演会				ワークショップ開催	ワークショップ開催	ワークショップ開催	ワークショップ開催				【冒険遊び場づくり、情報発信】 <実績値> ・ワークショップを4回開催し、延べ80名が参加しました。 ・講演会に134名が参加しました。 ・テレビによる 情報発信 を40回放映し、230団体を紹介しました。 <評価> ・冒険遊び場づくりについては、概ね計画通りに事業が実施でき、講演会やワークショップ等では多くの方の参加を得ました。 ・情報発信については、上記紹介団体の協力を得て、きめ細かな情報発信ができました。 【子育て支援機関交流事業について】 <実績値> ・全7回実施し、延べ597人が参加しました。 <評価> ・各回とも、子育て支援に携わる様々な業種の方が多数参加され、活発に意見交換を行う機会となりました。 ・参加者アンケートにおいても、県域で情報交換できる良い機会となったといった意見が多く、一定の効果がありました。 【淡海子育て応援団】 <実績値> ・淡海子育て応援団登録企業数が、896店から 1,045店 へと、前年に比べて149店増加しました。(目標920店) <評価> ・年間を通じて積極的に企業へ働きかけたことにより、当初計画を上回る協力が得られました。	【冒険遊び場づくり】 ・県民への啓発、リーダーの育成を図ります。 【情報発信】 ・子育てに関する取組は、現在も盛んに行われている反面、孤独感を感じている保護者も多く、今後も継続した情報発信を行います。 【子育て支援機関交流】 ・一定の効果が見えてきており、引き続き県内の関係機関の連携強化に努めます。 【淡海子育て応援団】 ・登録企業の確保に向けた取組を継続します。			
				実施		冒険遊び場づくり講演会	体験・フィールドワーク開催	ワークショップ開催	ワークショップ開催	ワークショップ開催											
				情報発信	HP立ち上げ	テレビ番組放送(計40回)	情報紙(小学生版)配布	情報紙(ベビー版)配布													
				子育て支援機関交流事業					交流会(研修会) 実施日 9/1, 9/2, 9/17	交流会(研修会) 実施日 10/8	交流会(研修会) 実施日 11/12, 11/26	交流会(研修会) 実施日 1/14									
目標3 子育て支援環境緊急整備事業の推進		「子育て支援対策臨時特例基金」を活用して、市町が、待機児童解消や保育環境の改善のために行う民間保育所等の施設整備等に対して支援します。 ・通常保育児童数 24,719人(H21.4.1) 26,500人	通常保育児童数 24,719人(H21.4.1) 26,500人	計画	事業計画協議	補助内示	第一次交付決定										<実績値> ・7市17箇所における保育所整備に補助を行い、平成23年度には定員が810名増加し、受入可能保育児童数は、 26,767人 となる見込みとなりました。 <評価> ・目標を上回りました。 ・計画的に保育所整備を行ったものの、保育所待機児童は依然として多いことから、今後もその解消に向けて保育所整備や家庭的保育事業(保育ママ)を推進していく必要があります。	・基金の期限が1年間延長されたことから、市町が行う民間保育所等の施設整備等を支援します。			
				実施	事業計画協議	補助内示	第一次交付決定	事業計画協議	補助内示	第二次交付決定	補助内示 第二次交付決定										

地域が関わる子育て、子育ての環境づくり				目標達成への工程 (ほっとシート)	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期			達成度	達成状況 <実績値・評価(課題)>	今後の対応			
目標	課題 (何を)	具体施策 (何によって)	H22目標値 (どれくらい)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
目標4	青少年の健全育成	子ども・若者の社会性や自立性を育むため、企業、地域、NPO等との連携を図りながら、体験活動の場や社会的経験の機会を提供します。 また、非行などの問題を抱える青少年の立ち直りの支援を進めます。	・しがこども体験学校参加団体数 86団体(H21) 90団体 ・あすく支援プログラム終了率 60.9%(H20) 70%	計画	体験学校参加団体登録	冊子作成	配布	HP掲載									<p><実績値> ・本年度新規登録団体 7 ・本年度未登録団体数 93(目標90団体) ・本年度は、69の実施団体から提供された195事業を掲載しました。</p> <p><評価> ・冊子を見ての問い合わせが全体の7割あるなど効果は高く、事業実施団体や参加者双方から高い評価を得ました。</p>	・就学前の子どものニーズに対応していきます。 ・秋冬に事業への参加者が少ないため、年間を通して活用されるよう工夫します。				
				実施	体験学校参加団体登録	冊子作成	交流研修会 5/24	7/1一斉配布 HP掲載	夏事業実施後アンケート											<p><実績値> ・あすく支援プログラム終了率見込 68% (目標70%)</p> <p><評価> ・H22年12月31現在のあすく支援プログラム終了率は、62.7%で、H23年3月末には、68%と昨年度(59.0%)を上回る見込みです。</p>	あすくにおける支援の充実に向け、関係機関との連携強化、支援協力企業等の開拓および職員の資質向上などに努めます。	
				計画	あすく無職対策研修会			あすく支援コーディネーター研修会	あすく教員研修会	無職少年対策指導員研修会	あすく合同連絡会議	関係機関連絡調整会議	施設員学研修会	あすくコーディネーター連絡会議								
				実施	あすく無職対策研修会			あすく支援コーディネーター研修会	あすく教員研修会					あすく少年センター職員研修会	関係機関連絡調整会議	あすく合同会議、あすくコーディネーター連絡会議						
目標5	要保護児童対策・DV防止の推進	児童虐待の防止、社会的養護体制の充実のため、関係機関の連携・協力体制の整備を図るとともに、DVの防止、被害者の適切な保護のため、DV防止基本計画を改定します。	・要保護児童対策地域協議会数 17市町(H21) 19市町 ・DV防止基本計画の改定	計画	オレンジボンキョウ開始	要保護児童対策連絡協議会(第1回)	市町研修		市町専門研修	児童福祉司資格研修							<p><実績値> ・要保護児童対策地域協議会 19市町で設置(目標達成)</p> <p><評価> ・未設置2市町に働きかけた結果、いずれも年度内に要保護児童対策地域協議会が設置され、目標を達成することができました。</p>	市町において県や関係機関等の連携により児童虐待防止が進められるよう、会議や研修、スーパーバイザー派遣等の支援を強化します。				
				実施	オレンジボンキョウ開始	要保護児童対策連絡協議会(第1回)	市町研修	市町専門研修				オレンジボンキョウ開始(たすきりレー、イベント等)								<p><実績値> DV防止基本計画 計画改定(目標達成)</p> <p><評価> ・市町や相談支援機関等の実務者によるワーキングチームを設置し、DV防止対策現場の現状と課題を踏まえた検討により、今後の対策をより効果的に実施できる計画内容となりました。</p>	改定計画に基づき対策を推進するとともに、PDCAサイクルの考え方を採り入れ、毎年度、計画の達成状況等を点検・評価していきます。	
				計画		ワーキング会議(第1回)	DV問題対策会議(第1回)	ワーキング会議(第2回)	DV問題対策会議(第2回)			ワーキング会議(第3回)	DV問題対策会議(第3回)	市町との対話		計画改定(案)			計画改定			
				実施		ワーキング会議(第1回)	DV問題対策会議(第1回)	ワーキング会議(第2回)	DV問題対策会議(第2回)			ワーキング会議(第3回) 市町訪問	DV問題対策会議(第3回) 市町意見照会		県民政策コメント				計画改定(案)			計画改定